

TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください

日本赤十字社 富山赤十字病院広報誌

I N D E X

●公開健康講座

●9月はがん征圧月間です

●がんのリハビリテーションについて

やすらぎ

2024年

9月号

No.510

第16回 公開健康講座

日時

2024年10月22日(火)

講演 18:15～(開場17:45～)

会場

オーバード・ホール

中ホール(富山市牛島町9番17号)

参加費
無料

申込
不要

一般演題

18:15～18:45

大腸がんってどんな病気?

富山赤十字病院 第2外科部長 竹原 朗先生



大腸がんの手術治療

～最新のロボット支援手術まで～

富山赤十字病院 第2外科部副部長 倉田 徹先生



特別講演

18:45～19:30

大腸がんにおける 最新のロボット手術とは

厚生連高岡病院 消化器外科診療部長 小竹 優範先生



【主催】富山赤十字病院(県指定がん診療地域連携拠点病院)

【後援】北日本新聞社 富山県 富山市 富山県医師会 富山市医師会 富山県看護協会 富山県栄養士会

【お問い合わせ】富山赤十字病院 医療社会事業課/総務課 Tel. 076-433-8843 Fax. 076-433-2481



9月はがん征圧月間です

がん検診 あなたの暮らしの 習慣に

(公益財団法人 日本対がん協会 2024年度がん征圧月間スローガン)

9月2日(月)～9月20日(金)

当院2階やすらぎホールにてがん予防、がん検診に関する
ポスター掲示をします

☆9月12日(木)11時～ やすらぎホール
「がん予防と運動について」 担当:作業療法士



がん予防や最近のがん検診について知ることができます
ぜひ、お立ち寄りください！

富山赤十字病院 がん相談支援センター

ピアサポーターをご存じですか？

ピアサポート

「ピアサポート」とは、がんという病気を体験した人やそのご家族などがピア(仲間)として体験を共有し、ともに考えることで、がん患者さんやそのご家族などを支えることです。「ピアサポート」を行う人を「ピアサポーター」といいます。



ピアサポーターになるには

富山県がん総合相談支援センターは、がん体験者及びその家族がピア(仲間)として、ほかのがん患者さんやそのご家族の、悩みや不安を共有し、共に考え、支援を行う「がんピアサポーター」を養成しています。

ピアサポーターさんに聞きました

Q1. ピアサポーターさんはどんなところで、どんな活動をしていますか

A1. 県内11カ所の病院で開催されている交流サロンと富山県がん相談支援センターで開催されている交流サロンです。

Q2. ピアサポーターさんと会いたいときはどこに連絡したらよいですか

A2. 各病院のがん相談員や富山県がん総合相談支援センターに連絡ください。

Q3. ピアサポーターさんだからこそその強みを教えてください

A3. 「先生や看護師さんに相談しづらい」「こんな些細なこと聞いていいのだろうか」など1人で悩んでいる方が沢山いらっしゃいます。

がんの種別は違っていても「がん」という病気を体験しているからこそ、悩みや不安な気持ちに寄り添えることが強みだと思っています。

また、反対に様々な体験等のお話をうかがいピアサポーター自身が元気をもらうことも多く、同志のような存在です。

ぜひ、一度サロンへ足を運んでいただきたいと思います。



当院の交流サロン「クロスサロンとやま」の様子

がんのリハビリテーションについて

「がんのリハビリテーション」と聞いても、どのようなものなのかイメージが湧かない方が多いと思います。がんになると、がんそのものによる痛み、食欲低下、息苦しさ、だるさなどによって今まで通り動けなくなったり、手術や抗がん剤治療、放射線治療などを受けることによって身体機能が損なわれたりすることがあります。このような状況では、日常生活に支障を来し、家事や仕事、学業など社会生活への復帰が難しくなり、活動量が低下し生活の質が著しく低下することがあります。

がんのリハビリテーションは、がんやがんの治療による体への影響に対する回復力を高め、残っている体の能力を維持・向上させるために受ける医療です。手術や抗がん剤治療、放射線治療などによる後遺症や合併症の予防だけでなく、がんの治療後の患者さんができるだけ早く回復し、社会復帰を果たすためにリハビリテーションを行います。体に何らかの障害が起こってから受ける一般的なリハビリと異なり、がんのリハビリテーションはまだ体に障害が起こる前の、がんと診断された時点から行うことができます。早期からリハビリテーションを行うことで、治療がスムーズに進み、治療による体力の低下や身体機能の低下を最低限に抑えることができますといわれています。

がんのリハビリテーションは、治療のどのような時期においても、どのような病状であっても、受けることができます。

診断された直後から始める「予防的リハビリテーション」

手術や抗がん剤治療などでの合併症を予防し、治療による身体機能の低下を最低限にするため呼吸練習や筋力維持トレーニングなどを行います。

治療と並行して受ける「回復的リハビリテーション」

手術や抗がん剤治療などにより低下した体力を元に戻すためベッドから起き上がる練習、筋力トレーニング、歩行練習などを行います。

再発/転移の時期には「維持的リハビリテーション」

運動能力の維持や改善が目的で、個々の患者さんの体力やがんの種類、進行具合によって、どのような内容のリハビリが行われるかは大きく異なります。

症状緩和を中心とした医療が行われるときには「緩和的リハビリテーション」

患者さんの意向を優先しながらQOL(生活の質)をできるだけ保てるように関わり、ベッドから起き上がる練習をしたり、呼吸困難感、痛み、むくみなどを和らげるようにリラクゼーションやマッサージなどを行います。

ほとんどの人はがんになっても、日常生活を維持し、本人が望むその人らしい生活を送れることを望んでいると思います。がんと診断された直後はさまざまな不安もある時期ですが、主治医と相談しながらがんのリハビリテーションを受けることをお勧めします。



理 念

人道・博愛の赤十字精神にもとづく良質で安全な医療の提供

基本方針

- 1 患者さん中心の医療を提供します
- 2 より安全で高度な医療の実践を目指します
- 3 地域医療に貢献する病院を目指します
- 4 災害救護ならびに医療社会奉仕に努めます
- 5 次代を担う医療従事者を育成します
- 6 働きがいのある病院運営に努めます
- 7 健全経営の維持に努めます

患者さんの権利

病院の「理念」・「基本方針」にもとづき患者さんが安心して医療を受けることができるよう、以下の権利を大切にします

- 1 個人の尊厳が守られる権利
- 2 プライバシーが保障される権利
- 3 適切な情報と説明を受ける権利
- 4 自ら医療行為を選択する権利
- 5 適切で最善の医療を受ける権利
- 6 子ども達が分かりやすく心のこもった医療を受ける権利

患者さんの責務

医療は患者と医療者との協同作業です。より適正な医療提供のため、以下の責務について十分ご理解をいただき、ご協力をお願いします

- 1 ご自身の健康状態に関する正確な情報をお伝えください
- 2 医療者と力を合せて診療に参加し、最大限の治療効果を発揮できるようにご協力ください
- 3 病院のルールに従い、院内での迷惑行為は慎んでください
- 4 受けた医療に対し、診療費をお支払ください



